Comparison of gene expression between pediatric and adult gastric mucosa with H.pylori infection

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2015-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大林, 奈穂 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001705

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 1608 号

Comparison of gene expression between pediatric and adult gastric mucosa with *Helicobacter pylori* infection

(小児期および成人期の *Helicobacter pylori* 感染胃粘膜における免疫・癌関連分子の検討)

大林　奈穂（おおばやし　なほ）

博士（医学）

論文内容の要旨

Helicobacter pylori（*H.pylori*）持続感染の多くは 5 歳以下で生じる。成人の *H.pylori* 感染は発癌のリスクとなるが、小児期からの感染の関与については明らかではない。

本研究では、*H.pylori* に感染した小児と成人の胃粘膜上に発現する免疫・癌関連分子の発現を、microarray を用いて比較検討し小児期における除菌療法の必要性を検討する。

当院小児科および消化器内科において、腹痛・悪心・嘔吐などの消化器症状に対して上部消化管内視鏡検査および胃粘膜組織生検を施行した患者を対象とした。*H.pylori* 感染小児群、非感染小児群、感染成人群、非感染成人群、各々6 症例、合計 24 症例の胃粘膜（前庭部・胃体部）を用い、microarray にて免疫・癌関連分子の発現を網羅的に比較検討した。また、microarray 上、有意差を認めた分子の中から炎症や発癌、感染、粘膜萎縮に関する分子を選定し、real-time PCR を用いて定量的に評価した。

小児、成人とも感染の有無によって免疫・癌関連分子に発現の変化が確認された。成人感染群でより強い発現のもの（OLFM4）、成人・小児感染群で同等に発現するもの（LCN2, REG3A, PIM2, CXCL13）、などが確認された。

H.pylori 感染における発癌の機序として、癌関連分子の発現の亢進及び慢性炎症性変化の関与が指摘されている。小児期の粘膜において、発癌抑制因子と考えられる OLFM4 の弱発現、癌促進に働くとされる REG3A、PIM2、および慢性炎症性変化に関与する CXCL13 などの強発現が確認され、将来の癌化の危険因子と考えられ、小児期における除菌療法の必要性が示唆された。